# 日本看護歴史學會　會報

日本看護
歴史学会
第81号
2024年1月15日


## ご挨拶

**日本看護歴史学会理事長　田中幸子**

田中幸子　理事長

この度、2023年8月の定例理事会・総会で第13期理事長を拝命しました、田中幸子です。本学会の発展に寄与してまいりたいと考えております。

本学会は設立37年目を迎えております。1987年の学会設立当時はまだ、看護系大学はわずかばかりで、看護系の学会も少ない中、看護の歴史研究に情熱を持って取り組んでおられた先達によって設立された学会です。毎年、看護の歴史上重要なテーマを基に学術集会を行うと共に、看護の歴史を社会に継承していくための活動が行われてきました。

1990年には過去100年間の看護職に関する様々な写真を掲載した「看護師の100年のあゆみ」（冊子）の発行とともに写真をパネルにして「看護婦100年のあゆみ写真展」を京都市、東京都、名古屋市などの公共施設で展示しました。また、テレホンカードとして「近代看護婦発祥百年記念」（1988年）、「保健婦規則制定50年記念」（1991年）、「医制発布・産婆120年記念」（1993年）を作成し、販売してきました。2008年には川嶋みどり元理事長の下、「日本の看護120年―歴史をつくるあなたへ」（日本看護協会出版会、2014年に改訂版）を発行しました。2023年３月には「日本看護歴史学会　35周年記念誌」を発行しました。

いずれの活動も、看護の歴史を広く社会の皆様に理解してもらう意義があり、研究推進のみならず「看護の歴史の継承」は本学会の重要な使命と考えております。先達が行ってきたこれらの活動の成果を踏まえ、今後とも会員の皆様の研究推進と看護の歴史の継承のために尽力してまいりたいと思います。

本学会のさらなる発展に向けて、いくつかの課題があります。1つには、会員数の減少です。対応策としては会員への研究支援を強化するとともに、会員ではない方々にも看護の歴史に関心を持っていただき、看護の歴史研究が面白いと思っていただけるよう各委員会と連携しながら、会員の増加に努めてまいります。2つ目として、学会誌・会報以外に会員の皆様に、効率よく迅速にお知らせをする手段がないことです。情報管理システムを改善し、メール等で適宜、学術集会のお知らせなどができるシステム構築を行います。3つ目には、日本学術会議に登録されていないことです。看護系の大学院では、日本学術会議に登録されていない学会誌の投稿論文を学位論文として認めないところもあります。これは若い優秀な研究者の育成に影響する喫緊の課題です。2023年10月の臨時理事会で検討し、日本学術会議への登録申請の準備を始めることとなりました。そのために会員の皆様には申請に必要な情報をご提供いただき、登録要件を満たしているかどうかを確認していく必要があります。現在、学術会議登録申請のワーキングチームが作業にあたっておりますので、何卒、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 第37回日本看護歴史学会学術集会　報告

**集会長　鈴木紀子**

第37回日本看護歴史学会学術集会が、2023年８月11日（金）～８月12日（土）の日程で、国際医療福祉大学小田原キャンパスにて開催されました。台風が沖縄・九州に多大な被害をも

たらす中でしたが、学術集会中の2日間は晴天に恵まれ、全国からは125名の参加、小田原市市民公開講座としても20名の参加があり、盛会裡に終えることができました。

第37回学術集会のテーマは、「日本の近代化と看護　～看護は何を未来に繋ぐのか～」

1日目は、学術集会長講演、教育講演4題、口演6題、示説5題、2つの理事セッション、2日目には口演2題とシンポジウムが予定通り行われました。

シンポジウムのテーマは、「コロナ禍で臨地実習ができない中、看護の技を未来にどう繋げるのか」とし、本学理事の川嶋みどり先生、曽田陽子先生（愛知県立大学看護学部基礎看護学）、中川真帆先生（聖路加国際病院看護師）の3名のシンポジストの方に登壇いただきました。

川嶋先生からは、「臨地で実際に触れて体験することの教育学的意味からも、コロナの危険性を優先して実習の中止という判断は正しかったのだろうか」との問題提起がなされました。看護学生であっても、感染防止策を自ら講じる実践力を身につけさせ、今後も起こることが予測される未知の病原体に対する実践能力を学ぶ機会と考え、育てて、社会に送り出すことの意義について、参加者も一緒に考えることができました。中川先生は、恩師の看護技術のすばらしさに感銘を受けた経験の話も交え、指導する看護教員、看護師自身が技術を学び、技術能力を磨く、その機会を創造することの楽しさを話してくださりました。基礎看護学の教員として学生に看護技術を教えている曽田先生からは、教員としてのデモンストレーションの必要性を強調され、大学では新人教員へ技術指導を行っていることの報告など、より高い看護技術の伝承を守ることの重要性が、強いメッセージとして発信されました。川嶋先生は、諸事情からZOOMでの参加でしたが、対面での意見交換にシンポジウム終了時には会場から大きな拍手も沸き起こり、充実したシンポジウムであったことが伝わってきました。

今回の学術集会の参加者を見ますと、125名の参加者のうち会員は81名、非会員の方は44名で、そのうち2名の方は県内の看護専門学校の学生でした。非会員の方が多いということは、今後会員数を伸ばす大きな可能性を感じます。協力学生らも「学会楽しいですね」と歴史の幅広さと奥深さに興味が湧いたようでした。

写真は学会1日目の会場風景ですが、ほぼ満席に近い状況で、コロナ禍を乗り越え、久しぶりの再会に笑顔で挨拶を交わす風景が見られ、大変心温まる思いがしました。参加者の皆さん、企画委員の皆さん、実行委員の皆さんのご協力に感謝すると共に、これから看護の未来を担う若い方々への発信もしながら、学会がさらに繁栄することを願った学術集会でした。

学会 会場風景

## 第38回日本看護歴史学会学術集会開催にあたって

集会長　屋宜譜美子

2024年8月11日（日）、12日（月・振替休祝）に奈良県天理市の天理大学において第38回日本看護歴史学会学術集会を開催いたします。第38回を迎える学術集会ですが、奈良県開催は初めてのことです。是非、歴史ある奈良を訪れていただき、古事記、日本書記に遡る「日本のまほろば」を味わっていただきたいと思います。

開催にあたり、改めて本学会の規則を確認したいと思います。「第3条 本会は、看護に

集会長　屋宜譜美子

関する歴史の新たな方向性と可能性を求め、広く看護歴史を考究することを目的とする」と謳われており、「第6章学術集会 第20条 学術集会は、毎年1回開催する」とあります。

学術集会は第3条の目的を達成することが任務であることは自覚するところです。第38回学術集会では､「看護に関する歴史の新たな方向性と可能性を求め」る、ということを目指してテーマを「未来に向けて歴史を繋ぐのは今」としました。歴史が未来にもたらすものは何か、それはどのような可能性を孕むのか、どのような未来を想定した営みなのか、大会長として大きな問いに答えたいと思っております。学術集会を運営する企画委員、実行委員とともに、各プログラムの運営にあたってまいりたいと存じます。

本学会は、看護の歴史を明らかにする研究を積み重ね、学術集会、出版物を通して広く社会に看護の歴史を繋ぐ機能を果たしてきたと思っております。この営みを一般の方々にも広く知っていただきたいという意図で、一部市民講座の形態をとり、未来を拓く看護学生の皆様と共に、一般市民の参加費を無料にいたします。

プログラムは、今歴史を繋いでいくことに取り組まれている講師の方々をお招きして、看護の永遠の問いである人間と人間の営みの理解、関連する学問の歴史を通して社会の理解を深め、視野を広げることを意図した教育講演などの企画を進めています。加えて、看護歴史研究の発展につながる交流セッションで、残すべき看護の技をいかに伝え、つなげていくかを共に学びあう場を設けました。

看護歴史学会会員の皆様においては、ご研究の発表を通じて看護歴史研究の豊かさ、深さをお示しいただきたくお願い申し上げます。会員ではない方々を学術集会へお誘いいただき、この学会をより大きく育てていく機会としていただきたく存じます。

天理大学は2025年に創立100周年を迎えます。歴史ある天理大学附属図書館、博物館への参観も用意いたしております。

詳細は今後以下のホームページで逐次ご案内をさせていただきます。「修学旅行以来の奈良」をお楽しみいただけるような情報も加えて参ります。「地球沸騰」の夏は来年も続くと思います。熱い思いをもって天理の地でお待ち申し上げます。

第38回日本看護歴史学会学術集会
ホームページ
URL：https://www.jsnh38.com/

## 学会誌編集委員会からのお知らせ

**編集委員会　川原由佳里・岡山寧子・滝内隆子**

日本看護歴史学会誌では，会員の皆様からの投稿を受けつけています。学会誌は年1回の発行で、2024年度の投稿締め切りは6月末日です。

看護の歴史に関するテーマの研究でしたら、新規性、独自性を有する成果を発表するものから、既存の知見を追認するもの、新史料の発見を報告するものまで、幅広く看護歴史の発展に寄与する論文を掲載したいと考えています。

また2024年4月から投稿規程も改訂します。改訂点は次の4つです。1．原稿の種類を総説、原著、報告、資料、その他とし、具体的な内容を示しました。2.英文抄録を追加しました。3．文献と注釈の表記の仕方を示しました。4．原稿のメールでの受付を可能にしました。詳しくはHPをご覧ください。

多くの皆様からの論文の投稿をお待ちしております。

# “九州（旧事務局）”便り

12期事務局　丸山マサ美・原　寛・荒巻初子

九州（旧事務局）設置は、Covid-19感染症拡大中の3年でした。この間の『誌上学会』・『WEB学会』は、安全面への最善策が講じられた学会初の開催形態でした。コロナ禍にあっても、一年も絶やす事なく、学術集会が開催されました事は、本学会の『存在』を社会にアピールできたものと考えます。またその間、総会書面、35周年記念誌発送に伴う経費が嵩みました。行動制限等の制約の中での運営はかなり厳しいものでした。理事会も全てWEB開催となり、“Face to Face”とは異なる“コミュニケーション”は、しばしば“エラー”を生じ、事務局の『舵』が非常に取りづらく、理事・監事には、ご迷惑をおかけしたことと存じます。

九州事務局の総括としては、以下の2点です。『年度別新規入会者の会費納入状況（図1）』から、2022年度新入会者は、2年目の会費納入者が半分でした。学会運営は、速やかな会費納入にあります。また、『新入会者の動向（表1）』から、幅広い年代の入会がありますが、若い世代の入会にも尽力する事も重要でしょう。ともあれ、3年間の事務局としての『責務』を無事に終えられました事を深謝いたします。

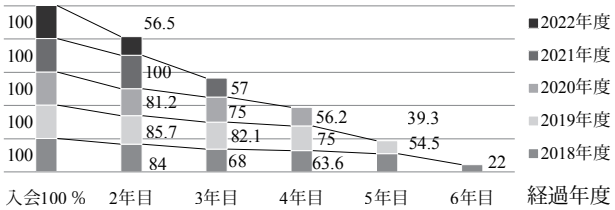


図1．年度別新規入会者の会費納入状況と推移（%）

表1．新入会者の動向（年代と人数）

| 入会年度＼年代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70以上 | 不明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2018年度（人） | | 3 | 7 | 13 | 9 | 4 | 8 |
| 2019年度（人） | 4 | 5 | 4 | 9 | 2 | 3 | 1 |
| 2020年度（人） | | 1 | | 8 | 3 | 4 | |
| 2021年度（人） | 1 | 1 | 1 | 8 | 2 | | 1 |
| 2022年度（人） | 1 | 3 | 10 | 6 | 2 | 1 | |

## 新入会員紹介（敬称略）

＊（　）内は会員番号　2023年6月29日～9月13日入会

松浦智恵美（23003）　永谷　晃子（23004）
早藤　夕子（23005）　伴　美智子（23006）
門川由紀江（23007）　茂野香おる（23008）
山田　順子（23009）　磯田　容子（23010）

## お知らせ

■事務局から
会員動向
（2023年5月15日～2023年10月31日現在）
1．会員数　281名
2．入会者　8名
3．退会者　19名（うち資格喪失者13名）

学会年会費：会計年度毎年4月1日～3月31日
年会費（6,000円）をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。
2年間会費滞納の場合退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。
新規・再入会の手続きは本会ホームページ「入会案内」をご参照ください。

## 編集後記

今年は、過去の歴史から学び、世界各地の争いが戦闘ではなく話し合いで解決されますように願っております。（黒）

日本看護歴史学会会報　第81号

企画・編集　黒田裕子（太成学院大学）
屋宜譜美子（天理大学）
小田正枝

発行責任者　田中幸子（理事長）

印　　刷　株式会社　ソウブン・ドットコム

事　務　局　〒261-0014
千葉県千葉市美浜区若葉2丁目10番1号
千葉県立保健医療大学
健康科学部看護学科内
事務局　春日広美
E-mail　office@jsnh.jp

学会HP　http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/